堤　池　（つつみいけ）

位　置　図

諸　　元

貯 水 量		201	千㎥
満水面積		5.6	ha
受益面積		48	ha
堤　　高	東堤	11.0	m
	西堤	9.5	m
堤　　長	東堤	130.0	m
	西堤	119.0	m

堤池の下流は、平安時代以前までは一大沼沢地で大洪水のたびに綾川から氾濫した濁流がこの沼地に入り、東大束川まで流れていたといわれています。この沼地の東西両面を南北に堤防を築いて池としたのが渡池で、寛永年中(1625～39 年)に西嶋八兵衛が築いたと記録されています。

その渡池を享保 5 年(1720 年)に干拓して田地とした時、かんがい用水確保のために堤山西方の３つのため池を合わせて築造された池が堤池といわれています。そのため、地元では「三つ池」「三合池（みついけ）」（読み方同じ）と呼び親しまれています。

以来 300 年余りの間に昭和 8 年（1933 年）の東堤改修工事、昭和 21 年(1946 年)の西堤前付工事、昭和 62 年（1987 年）の堤体中央部補強工事など幾度も樋管改修や堤体改修が行われてきましたが、堤体全体にわたり老朽化が進行し、漏水が極めて多くなるなど災害発生のおそれが生じたことから、昭和 63～平成 5 年度（1988～1993 年）に県営大規模ため池等整備事業として全面改修が行われました。

平成元年（1989 年）に「綾歌十景　三つ池」として指定されたこの池は、優れた水辺環境から県外からも多くの人が訪れています。

堤体東堤より

美しい水辺環境「綾歌十景 三つ池」